

現在第七版を重ねる岩波国語辞典は、下伊那郡豊村帯川（現阿南町）出身の西尾実と岩淵悦太郎の編集で、第一版は一九六三（昭和三十八）年四月十日の発刊である。

この辞典の特徴は、単に言葉の意味を記すだけでなく「春」に例

を取れば、英語では

「スプリング」といい、

これは別に「ばね」や

「泉」の意味を持つて

いる。このように「春」

という言葉には地の底

からわき出る水のように、

またおさえつけ

てもはね返す力がある

るといふ意味を持つ

ていることを説明に

加える

ことを基

本方針と

した画期

的な辞典

であっ

た。

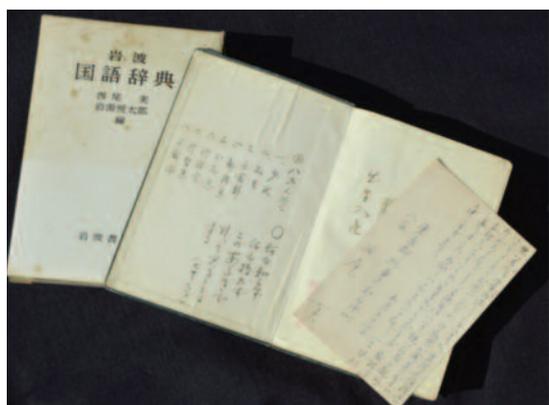
◇

南信州

資料セン

ター、通

蔵での整理・搬出作業風景



称「捨てないで」の活

動は、いただいた資料

が現在3万点を越える

ので復本を二部まで確

保し、それ以上のもの

は希望者に活用してい

ただいたり、廃棄処分

を実施しているが、そ

の最終点検を立場上筆

者が行っている。

過日、その作業中前

料をいただいた矢高行

路（東）で、ハガキの

裏面に文章が記され、

差出人は「西尾実」と

あるので、改めて文章

を読み返した。そこに

は次のように記されて

いた。

「思いながら御無沙

汰してしまいました。

岩波国語辞典について

ます。

五月三十一日

東京都杉並区和泉町

八一五

西尾 実

◇

このハガキの書かれ

た五月三十一日はハガ

キの消印スタンプに

「38」とあるので、辞

典が発刊された昭和三

西尾実のハガキと岩波国語辞典

吉澤 健

十八年である。

この年の四月に辞典

が発刊され、矢高は早

速購入し、使ってみて、

その感想や気づいた点

を編集者の西尾実に書

き送ったのである。二

人はかねてから相知る

間柄であったことも文

面から伺われるが、発

つではないかと思いい

文を草した次第。

辞典のあと表紙裏に

矢高は絵を描き、箴言

を記され、ハガキをは

さみ、愛用されていた

ことが推測される一冊

であった。（文中敬称

を略させていただきます）

した）